

早春の青刈飼料



一 青刈給飼と早春の飼料

飼料の青刈給飼は、わが国のように気候が一般に湿潤で良好な乾草が得難く、そのうえ経営面積が小さく、労力の比較的豊富な地位をしめているが、従来はこの緑飼料資源のほとんどをいわゆる採草地と称する原野、里山等から求めていたわけで、これには莫大な労力を要するばかりでなく、適期収穫も容易でなく、取量栄養価の点からも必ずしも有利とは考えられなかつた。せまい耕地であるから、もちろん、これらの山野草も十分利用すべきであるが、もつと手近から有利な飼料資源を望むのは誰しも当然のことであろう。

幸いにして最近畑地水田等の熟圃間混作、後作、裏作等の青刈飼料作物の栽培が漸次とりいれられ、従来の不利が是正されつつあるのはまことに結構な次第であるが、熟圃を利用する青刈作物の栽培にあつて今後着目すべきもの一つは、早春利用を目的とした青刈作物の選び方、栽培法であろうと思われる。

何故なれば、早春は冬期間の飼料である

三 浦 梧 楼

根菜、乾草、埋草等も逐次枯渇し、できれば緑飼料を一日も早く給与して、家畜の健康を増進し、生産を高め、また飼料の経済を計りたい時期であるからである。しかもこの時期には山野草も十分繁茂せず、特殊な青刈作物が必要となつてくるのであるが、その青刈作物の生育期間も大半は冬期間で、地域により差はあるけれども、要求度の強いに反して栽培条件が困難ではあるが、反面この時期は休閑圃多く栽培用地に恵まれ、かつ労力的にも余裕のあるという好条件があるので、適当な青刈作物があれば早速にも取入れるべきであろう。

以下、早春利用の青刈作物として、これらの栽培の不良条件を克服して、しかも要求に合する次のような作物について、特性その他の概要を述べ、読者の参考に供したいと思う。

- 禾本科 燕麦、ライ麦
- 荳科 コンモンベッチ、ヘヤリーベッチ
- 十字科 レープ(菜種)

各地域における早春利用の青刈飼料作物栽培利用時期の事例第一表のごとし。

二 早春利用の青刈作物の特性

概要と品種、栽培、利用

- (一) 燕麦 (カラス麦、オート)
 - 特性 燕麦は越年性(温暖地)または一年生(寒冷地)作物で、麦類中最も耐寒性が弱く、関東以南では越年するが、北海道や中部の山岳、高冷地では越年しない。草丈は五尺内外となり、茎太く軟く、葉身は長く幅広く、出穂期が遅く、早刈りする時は二〜三回刈ができ、青刈麦類中最も優秀なものである。
 - 品種 (第二表品種特性概要参照)
 - ◎ビクトリー一号 スエーデン原産「スワロフビクトリー」より北海道農試において純系分離を行い育成した子実・青刈用の優良品種。
 - ◎前進 アメリカ原産で、原名「オンワード」と言い、子実取量最も多く、かつ青刈としても多収な優良品種。
 - ◎スワロフステール スエーデンスワロフ育種研究所で育成されたものを、戦後弊社において直接取り寄せ、適応性を検定の結果子実、青刈取量とも優良と認められた増殖中のもの。
 - ◎R六六二〇 ユーゴスラビヤ原産で、北海道農試において保存中のものを青刈用として分譲をうけ、数年前より弊社千葉育種場(千葉県下志津原所在)と連絡試験の結果最も耐寒性の強い品種と認められたので、冬作青刈用品種として増殖中のものである。今春(昭二八)千葉県地方は例年になく寒気と乾燥でほとんどの品種が冬損したが、本R六六二〇はライ麦と同様いささかの冬損もなく、旺盛な生育を続けていた。将来は冬作青刈燕麦の限界地帯附近の

第一表 早春利用の青刈飼料作物栽培利用事例

地域	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
寒冷地(東北)1		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り
寒冷地(東北)2		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り
温暖地(関東)1		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り
温暖地(関東)2		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り
暖地(九州)1		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り
暖地(九州)2		刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り	刈取り

備考 ○播種期 — 生育期間 () 生育期間中の基礎飼料 △刈取開始時期 // 青刈期間
 註 2,3回刈の場合は生育期間の後半から利用される。

耐寒性品種として今後の普及を期待している。
 栽培 (第三表栽培法一覽表参照)
 施肥量は窒素分の割合を多くして茎葉の繁茂を助長するようにつとめ、追肥は割合におそくまで効果が認められるが、これは地上部の窒素含量の増加に役立つもので、再生力には影響がないと言われている。土寄せ作業はとくにでき過ぎでない限り、倒伏の心配が少いから必要はない。生産飼料の蛋白含量の増加と、多味、取量の増加を目的としてコンモンベッチ二



出穂直後の燕麥

升(五、六听)ぐらい混播すると一層良い成績が得られる。

利用

大休出穂前後が養分収量の最も多い時期とされているが、燕麥は出穂後も他の麦類に較べて比較的莖が軟いので、刈取り時期にゆとりがある。収量は普通一回刈りのものが最も多いが、良質の草を目的としたり、他の草との利用組合せ等から二、三回刈りも行われる。二、三回刈りの場合は刈取りの高さは三寸から五寸程度とした方が再生力旺盛で、とくに節間伸長期以後の刈取りはこの著意が必要である。緑飼としてなお余裕のある場合は乾草または埋草等に調製することもできる。栄養価は禾本科青刈中で蛋白質含量の多い方で、蛋白質の消化率も甚だ良好である。

(一) ライ麥 (黒麥、ライ)

特性

青刈用ライ麥は越年性(秋播品種)または一年生(春播品種)作物で、穂は小麥のように中軸の両側に無稈の小穂が互生している。他の麦類

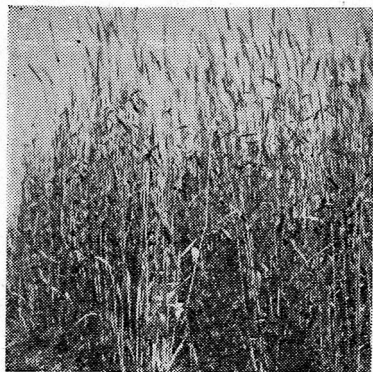
品種

(品種特性概要は第二表参照)

ライ麥の品種には春播と秋播とがあるが、現在栽培されているのはほとんどが秋播品種である。

◎ベトクラーザ ドイツで育成せられたものを農林省が導入したもので、代表的な優良品種であるが、前記のように他花授精作物で、採種には注意を怠ると雑駁なものとなり易い。

◎ベトクラーザー一八五 北海道農試において戦後純系淘汰を行ってきた青刈用の優良系統と思われるもので、冬枯れに強く、生育また旺盛な子実青刈の多収系統である。



ライムギ (ベトクラーザー 185)

る。弊社では昨年より種子の分譲をうけ増殖中のもので、明秋からは一般の需要に供应されるよう隔離採種中である。

栽培

(第三表栽培法一覽表参照)

ライ麥は吸肥力が強く、しかも倒伏の心配のない作物であるから、施肥量は燕麥よりも幾分多目に与えたとより多収となる。

積雪寒冷地では降雪直前にセレンソンの水銀製剤を撒布してやると雪腐れ(冬損)を防ぐことができる。栽培にあたっては寒冷地ではヘヤリーベッチ、温暖地ではヘヤリー、コンモンベッチまた赤花豌豆等と混播すると、栄養価も高くなり、多収となる。混播量は反当りベッチ類は五、十听、赤花豌豆八升、一斗が適当である。

利用

収量は一回刈取りのものが収量最も多いのは燕麥と同様で、莖葉の硬化が早いから、なるべく早期に利用するようにし、緑飼としてあまつたものは埋草、乾草製造にあてる。

(三) ベッチ類 (主としてヘヤリーとコンモンベッチ)

特性

一年生または越年性蔓性の作物で、莖は中空、表面に数条の縦溝が走っており、葉は長楕円形の羽状複葉で、その先端には巻ひげをつけて物に纏り、六、八尺以上に伸びる。紫雲英よりも栄養価に富み、花は紫色となる。ベッチ類は単作されることもあるが、飼料価の向上、生産量の増加、地力の回復等の関係で燕麥、ライ麥等と混播すると一層有利である。

種類品種

(第二表品種(種類)特性概要参照)

◎コンモンベッチ(別名サートウイッケン、スプリングベッチ)

耐寒性弱く、寒冷地の秋播は困難であるが、温暖地(関東以南)では冬作可能で、早春の生育も早く、開花期もヘヤリーベッチに比して一、二週間早い。最近各地で菌核病の発生が散見せられるようになってきたが、これには耐病性の新品種ワイラメッドがよいようであるが、まだ一般の需要に応ずるほどの種子生産が行われていないが、弊社においては増殖を計画中である。また中国、四国農試の研究によれば、同地では菌核発生地にはウーリーポッドベッチを代用し成績を挙げている由である。

◎ヘヤリーベッチ(別名サンドベッチ、ウインターベッチ)

耐寒性強く、積雪寒冷地においても秋播が可能で、冬期間の生育は暖地ではコンモンベッチほどではないが、春暖に入つてからの生育は頗る迅速旺盛である。開花期はコンモンベッチよりも遅い。本種には植物体全体に毛茸のあるヘヤリーベッチと、ほとんど毛茸のないスミスベッチとがあるが、両者混用されているのが現況のようである。

◎雪割ベッチ(くさぶじの改良系統)

弊社において数年前より野生の「くさぶじ」を導入、耐寒性、耐湿性、採種の多いことを目標として淘汰選抜育成した一群であつて、分枝数多く、また早春の生育旺盛で、あたかも春雪を割つて萌え出ずるの感



開花期における雪割ベッチ

がするので、雪割ベッチと名付けている次第であるが、北海道においては「ヤリベッチ」にして冬枯れ少く、草、種子ともに収量多く、半湿田での裏作としても相当生産量があつた。(詳細は別の機会に発表したいと思つてゐる。)また暖地の千葉育種場における試作でも多数の分枝と旺盛な生育で、早春すでにその栽培圃場は部厚い絨毯の上を歩むの感がした。暖地では特に冬期間の降水量(湿度)の多い年ほど成績良好のようである。種子の本格的な生産は明年となるが、各地での試作検討を期待している。

栽培

(第三表栽培法一覽表参照)

ベッチ類は元來纏絡性作物であるから、支柱作物として燕麥、ライ麦(寒地ではライ麦と「ヤリベッチ」または「雪割ベッチ」等と混播すると有利である。

第二表 早春利用の青刈飼料作物品種特性概要表

作物名	品 種 名	草丈	分蘖	葉幅	莖稈	倒伏	稚苗姿勢	色	出穂期	耐寒性	その他	
燕	ビークト	高	多	広	稍太	中	直立	緑	中	中	冬枯れの心配のない地帯に適合する多種の心配の適する多種の他倒伏の心配ある地帯に適合する多種の耐寒性品種	
	前進	稍低	多	特に広	太	中	直立	緑	稍早	中		
	ワローフル	高	多	広	稍太	強	直立	緑	稍晩	中		
麦	R 6 6 2 0	稍低	極多	中	稍太	中	匍匐	緑	晩	強	耐寒性品種	
	ライ麦	ベトターザ	高	多	広	強剛	最	直立	灰緑	早	極強	ベトターザに比し一層多収
	ベトターザ	高	多	広	強剛	最	直立	灰緑	稍早	極強		
作物名	種 類 名	草丈	分枝数	葉 形	毛 茸	花の状態	開花期	耐寒性	耐湿性	耐病性	収量	
ベッチ類	コンモソ	中	中	幅広い	少(ヤ)	淡紫色	1~2個	早	小	大	稍弱い	中
	ベヤリ	高	中	幅狭円形	多(ス)	赤紫色	総状花	晩	大	大	強	多
	雪割ベッチ	高	多	同上	多	同上	(小花数少)	晩	大	極大	強	極多

第三表 早春利用の青刈飼料作物栽培法一覽表

作物名	気 候	適 地	播 期		種 量	畦幅株間	反当肥量	施肥法	取 穫	反当青刈収量	その他
			期	量							
燕	涼冷の多い。	腐植土に富む壤土に最適。	9月	下旬	5升	1.5尺	堆肥400貫	4月下旬	4月	700貫	「ヤリベッチ」コンモソ、赤豆等と同等。
麦	温や気候。	酸性土壌に栽培可能。	11月	月上旬	1斗	2.0尺	硫酸4貫	5月下旬	5月	1,000貫	
ライ麦	各々強き。	酸性土壌に最適。	北海道	北東部	6升	1.5尺	吸肥力強い。	4月中旬	4月	800貫	「ヤリベッチ」同様に地温が暖かい。
ベッチ類	チを南候。	土質は酸性。	9月	上旬	5听	2.0尺	硫酸2石	1貫	4月下旬	700貫	利用コップに特によく。

また水田裏作として単用されても結構であるが、紫雲英と混播して、紫雲英の固核発生の適量減をカバーし、また乾湿に対する適応法もベッチ類(特にコンモソベッチ)が大であるから、安定した収量を得るためにぜひとも混播したいものである。

利用

肥作物として栽培されていたベッチ類は従来主として緑

三 あとがき

主として今後の早春利用を目的とした青刈飼料作物についての概要を記したわけ

は他の豊科作物とほとんど同じ程度に豊富であるが、これらの作物はとくに暖地では播種期の幅も広く、また地域による栽培様式、方法等種々と異なるので、各地域での栽培法または適種適品種等については本誌六月号「暖地における秋播飼料作物」座談会の記事を再読、各地域の大学、試験研究機関の諸先生の研究成果とご高見を取り入れて一層良好な成績を挙げられることを希望する。(筆者は雪印種畜上野幌育種場在勤)